

1 教育に対する基本的な考え方

(1) 目指す学校像『自ら考え行動し、楽しく学び合う学校』

多様な社会構造の中、次代を担う子どもたちには一人一人が充実した生き方を探求しながら、豊かさあふれた未来の社会を構築していく力を育むことが必要である。さらに、今後の学校には、世界中の人が豊かに暮らし続けることのできる社会を目指して、主体的に行動することのできる人材を育てていくことが最も重要な課題とされている。

学校は子どもたちを中心に据え、その地域の教育資源を最大限に活用しながら教育活動を進めていくことが大切である。そして、いかなる時代においても、夢や志をもち、可能性に挑戦しながら、あらゆる人々と共によりよい社会の創り手となる子どもたちを育てていくことが、学校の責務であると考えます。

本校はこれまで指導の重点を置いてきた「環境教育の推進」と、そしてもう一つの特色である「地域とのつながり」を連携させ、「SDGs 教育」を推進し、学校の特色を作ってきた。今年度も様々な教科における探究的な学習を通して、持続可能な社会の形成者としての思考力・判断力・表現力の育成に努める。さらに、品川区のウェルビーイング教育推進校として、「一人一人のウェルビーイングを尊重し、それを実現する資質・能力を育む」という視点から実践を重ね、本校の教育理念である「互いに人権を尊重しあう、情操豊かな子どもの育成に努める」を実行していく。

教育活動の展開においては、次の2つの柱をもって臨む。

① 学力の視点～学び合う児童の育成～

学力とは、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、それらに支えられた学びに向かう力・人間性等である。ICT 環境を適切に活用して“個の学びと集団での学び”、“アナログでの学びとデジタルを活用した学び”を効果的に融合することで主体的・対話的で深い学びを実現させ、子どもたちに確かな資質・能力の育成を図る。

○学びで大切なことは、まず自らしっかり自分の考えをもつこと、そして、他者と対話しながら自分の考えをさらに深めていくことである。安心して自分の考えを伝えることのできる環境の中で、主体的に問題を見つめ、粘り強く考え、友達と話し合いながら、深い学びが生まれる魅力的な授業の実践に努める。

○自己表現力を育てる。語彙を増やしたり、表現するスキルを身に付けさせたりするとともに、話をよく聞き、自分の考えをもち、相手に分かりやすく説明するなど、傾聴力・発信力・コミュニケーション力を身に付けさせる。

② 人間形成の視点～豊かな関わりや出会いの創造～

○全教育活動を通して、決まりの遵守、挨拶の励行、場に応じた言葉遣いの徹底など、自他を大切にし、互いに安心できる人間関係を構築する児童を育てる。

○様々な人や自然・事象との出会いのある教育活動を工夫・充実させ、豊かな心を育むとともに、目標や課題解決に向けて協働する力を身に付けさせる。

品川コミュニティ・スクールとして、学校が地域の拠点となり SDGs 教育×ウェルビーイングに

取り組んでいくことは、児童が地域の様々な人とのつながりの中で学ぶ学習を通して、身近な課題に主体的に取り組む、多様な人と協働して解決を図る力を育むと考える。子どもたちが目的意識を働かせ、自分自身の責任を果たしながら、周囲の人々と共に協力して高め合い、社会全体をよりよくするために学んでいくことができるよう教育活動を推進していく。

(2) 小学校6年間で育成する児童像

これからの社会の変化とそれに伴う児童の生活や意識の変容を見据え、小学校生活6年間で子どもの身に付けさせておかなければならないものは、学力と人間形成である。ここに育むべき資質・能力を包括する言葉として、『明るく、やさしく、たくましく』を掲げる。

「明るく」の具体的な内容は、何事にも前向きに、個々に楽しみを見つけながら取り組む心の持ち方であり、「やさしさ」は、自他を大切に作る心と行動力であり、「たくましく」は、学力、体力、そして何事も最後まであきらめない強い心と実行力である。

自分の力を信じ、世のため、人のために動けるやさしさと、課題を乗り越えたくましく生きぬく力を身に付けることを目指し、日々の教育活動推進にあたって、常にこの合言葉を念頭に置くこととする。

(3) 目指す教師像

子どもも教職員もエージェンシー(※1)を発揮できる学校であることは、教育活動の基盤である。誰一人取り残すことなく、一人一人の子どもを大切にする教育を行うためには、教職員同士も互いを認め、主体性を発揮し、高め合う関係性の構築が必要である。教師としての専門性や指導力向上を図り、多様な専門性・背景を有する外部人材や専門スタッフと連携し、チーム山中として、すべての子どもをすべての教職員で導き、支え、育てる。

※1 自ら目標を定め、学び、責任をもって行動する力

2 山中小学校の目指す教育

(1) 教育目標

互いに人権を尊重しあう情操豊かな子どもの育成に努める。

深く考えやりぬく子ども(知)

◎きまりを守り協力する子ども(徳)

健康で明るい子ども(体)

上記の教育目標を掲げ、持続可能な社会の形成者として国際社会で活躍する人材の育成に努める。

(2) 学年のまとめりと指導目標

ア 第1学年から第4学年

① 深く考えやりぬく子ども

○ 学習のめあてをもち、課題解決に向けて取り組むことができる。

② きまりを守り協力する子ども

○ 集団行動のルールを守り、仲間と協力して生活することができる。

③ 健康で明るい子ども

○ 規則正しい生活をして、進んで運動することができる。

イ 第5学年から第6学年

① 深く考えやりぬく子ども

- 自らのめあてや課題を設定し、達成や課題解決のために粘り強く取り組むことができる。

② きまりを守り協力する子ども

- 友達と協力しながら日常生活をより良くするための方法を考え、集団生活の中で役立つ喜びを味わい、自信をもつことができる。

③ 健康で明るい子ども

- 1日の生活の仕方を計画的に考え、規則正しい生活習慣や運動習慣を身に付けることができる。

(3) 指導目標を達成するための基本方針

ア 深く考えやりぬく子ども

- 学習指導要領の理念を正しく理解し、深い学びの達成のため、主体的・対話的な学びの実現を目指す。そのために、日々の授業改善に努め、指導力向上を図る。
- 教育活動全般において、SDGsと関連させてカリキュラム・マネジメントを行い、ESD教育を推進する。
- 第3学年から第6学年は、市民科一貫プランで「探究学習」を実施し、探究的な学びを推進する。また、課題の設定や学習のプロセス等、自己決定の場を取り入れることにより、児童の主体性や自己効力感を育む。
- ICT 機器を効果的に教育活動に活用し、各教科の指導を通して情報モラル等の情報活用能力を育成するとともに、個別最適な学びや協働的な学びのツールとして1人1台端末を有効に活用し、児童自らが学習の仕方を身に付け、問題解決能力の向上を図るように努める。
- 同学年担任による市民科の交換授業を全学年で行う。また、英語教育を全学年で推進する。
- 品川区学力定着度調査および全国学力・学習状況調査の結果を分析し、課題箇所の指導や授業の改善を行う。
- あらゆる人や物との「出会い」を生む教育活動の展開、環境づくりを推進する。他者と関わることにより、多様性に触れ、認め合い支え合う力を身に付けさせる。
- 朝学習、昼学習の帯時間の指導を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。

イ きまりを守り協力する子ども

- 学校・児童・保護者・校区教育協働委員会が連携して、山中スタンダードを改訂しながら、生活指導を徹底し、児童の学習規律・生活規律の定着を図る。
- いじめ、不登校の未然防止、早期発見、早期解決に向けて、デイケン、いじめDアンケート、NiCoLi、学校風土D調査等の結果を生かし、対応する。
- 市民科を中心に全教育活動を通して人権尊重の精神に基づいた教育を推進する。
- たてわり活動ややまなかフレンド集会等を通して異学年交流を行い、思いやりの気持ちを育み、キャリア教育を推進する。
- 望ましい人間関係を築きながら、夢や希望をもって生きようとする態度や自己の生き方を追求する力を育成するために、品川コミュニティ・スクールの拠点として、授業の中で地域人材(緑化隊、おやこエコクラブ、町会、山中いきいきクラブ等)を活用する。

- 委員会活動やたてわり活動の取り組みの充実を図り、自己の責任を果たさせることで高学年児童の自主性・主体性・責任感を育成する。

ウ 健康で明るい子ども

- 将来にわたって心身の健康を維持増進するために、休み時間の外遊びの奨励や食育を通して、運動や食の大切さを知り、健康な生活を送るための姿勢や態度を培う。
- 体力調査の課題項目を体育科の指導で重点を置いて指導し、体力の向上を推進する。
- 品川スポーツトライアル、ワンミニッツエクササイズを体育科の指導等で行い、運動能力の向上を図る。
- 保護者・地域とともに命を守る教育(不審者対応、交通安全、災害安全、感染症防止、がん教育等)を推進する。
- 学校栄養職員と連携し、望ましい食習慣を形成するための食に関する指導の充実を図る。
- 休み時間の外遊びを推奨し、運動の日常化を図る。
- 個別に指導・支援を必要とする児童に対する特別支援教育の指導体制の充実を図る。
- 学校行事や市民科学習では、困難な状況に遭遇したとしても、精神的に大きく落ち込むことなく適応し、成長する能力であるレジリエンスの育成を意識し、活動の充実を図る。